

開講年度：2026

科目名	医療安全・医療情報・放射線 Patient Safety and Medical Quality・Medical Informatics	題目（副題）	医療管理
担当教員、教員連絡先内線	増田 雄一 他	増田雄一（内線：6510）、北口良晃（6185）、藤永康成（5277）	
学年、講義期間、曜日・時限	4 前期（随時）	月曜・3時限 木曜・4時限 木曜・5時限 木曜・6時限 金曜・4時限 金曜・5時限 金曜・6時限	
単位数、講義室	0. 50単位 医学科第2講義室 医学科第2実習室 旭総合講義室A B	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇄		授業達成目標
	M26カリ・医学、M25カリ・医学、M24カリ・医学、M23カリ・医学、M22カリ・医学、M21カリ・医学		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技能を修得している。	⇄	疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技能を修得している。
	≪プロフェッショナリズム≫温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけ、社会の健全な発展のために行動できる。	⇄	温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけ、社会の健全な発展のために行動できる。
臨床実習前の到達目標	・患者の基本的権利、自己決定権の意義、患者の価値観、インフォームドコンセントなどの意義と必要性を説明できる。 ・患者のプライバシーに配慮し、守秘義務の重要性を説明できる。 ・必要な課題を発見し、他の学習者や教員と協力してより良い具体的な解決方法を見出すことができる。 ・講義、教科書、検索情報などを基に、自らの考えを示すことができる。 ・適切な態度で診断治療を行うことができる。 ・コミュニケーションの方法と技能およびその及ぼす影響を概説できる。 ・良好な人間関係を築くことができる。 ・患者・家族に共感することの重要性について概説できる。 ・チーム医療の意義を説明できる。 ・チーム医療における医師の役割を説明できる。 ・医療事故の防止において個人の注意、組織的なリスク管理の重要性を説明できる。 ・医療現場における報告の重要性、医療文書の改ざんの違法性を説明できる。 ・医療安全管理体制の在り方、医療関連感染症の原因と防止に関して概説できる。		
授業で学べる「テーマ」	健康長寿、キャリア		
全学横断特別教育プログラム			
授業のキーワード	患者安全・医療の質向上、医療情報の適切な取り扱い・情報倫理・守秘義務・個人情報保護・診療録・電子カルテ、放射線を取り扱う業務とその理論・制度的背景 実務経験のある教員による授業科目		
授業の概要・一般目標	A-4-2) 患者と医師の関係 A-5-1) 患者中心のチーム医療 A-6-1) 安全性の確保 A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防 B-2-2) 診療録（カルテ）に関する基本的な知識（診療録の管理と保存（電子カルテを含む）、診療録の内容、診療情報の開示、プライバシー保護、セキュリティ、問題志向型医療記録<POMR>、主観的所見、客観的所見、評価、計画(subjective, objective, assessment, plan <SOAP>))を説明でき、実際に作成できる。 B-2-2) 電子化された診療情報の作成ができ、管理を説明できる。 E-6-1) 生体と放射線 ①放射線の種類と放射能、これらの性質・定量法・単位を説明できる。 ②内部被ばくと外部被ばくについて、線量評価やその病態、症候、診断と治療を説明できる。 ③放射線及び電磁波の人体（胎児を含む）への影響（急性影響と晩発影響）を説明できる。 ④種々の正常組織の放射線の透過性や放射線感受性の違いを説明できる。 ⑤磁気共鳴画像法<MRI>で用いられている磁場や電磁波による人体や植え込みデバイスの発熱等の現象を概説できる。 ⑥放射線の遺伝子、細胞への作用と放射線による細胞死の機序、局所的・全身的影響を説明できる。 ⑦放射線被ばく低減の3原則と安全管理を説明できる。 E-6-2) 医療放射線と生体影響 ①放射線診断やインターベンショナルラジオロジーの被ばく軽減の原則を知り、それを実行できる。 ②放射線診断（エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、核医学）や血管造影及びインターベンショナルラジオロジーの利益とコスト・リスク（被ばく線量、急性、晩発影響等）を知り、適応の有無を判断できる。 ③放射線治療の生物学的原理と、人体への急性影響と晩発影響を説明できる。 ④医療被ばくに関して、放射線防護と安全管理を説明できる。 ⑤放射線診断や治療の被ばくに関して、患者にわかりやすく説明できる。 E-6-3) 放射線リスクコミュニケーション		

授業の概要・一般目標	①患者と家族が感じる放射線特有の精神的・社会的苦痛に対して十分に配慮できる。 ②患者の漠然とした不安を受け止め、不安を軽減するためにわかりやすい言葉で説明でき、対話ができる。 F-2-5) 放射線等を用いる診断と治療 F-2-7) 超音波を用いる診断と治療
テキスト、教材、参考書	医療安全 教科書：Patient Safety, 2nd edition by Charles Vincent (患者安全 原書第2版、篠原出版社) 参考書： To Err is Human(人は誰でも間違えるーより安全な医療システムを目指して) Committee on Quality of Health Care in America, institute of medicine 2000, National Academy Press カモメになったペンギン ジョン・P・コッター 医療情報：特になし 放射線：放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料（令和4年度版） https://www.env.go.jp/chemi/rhm/r4kisoshiryo.html
履修上の注意	医療安全：事前学習、事後課題提出を要する項目もあるため、講義内容の把握をしてください。 医療情報：特になし 放射線：特になし
授業の形式、視聴覚機器等の活用	医療安全：PCプレゼンテーション、配布プリント等を通じて授業を行う。各講義において、小テスト、授業内ワーク、ワークの成果物作成・提出を行う。 医療情報：PCプレゼンテーションを通じて授業を行う。各講義において小テストを行う。 放射線：PCプレゼンテーション、配布プリント等を通じて授業を行う。
成績評価の方法	医療安全：上記講義の参加態度、小テスト、提出物にて行う。 医療情報：上記講義の参加態度、小テストにて行う。 放射線：上記講義の参加態度、小テストにて行う。 試験では、本授業の学修目標への到達度および今後に必要な知識が定着しているかを確認します。 各授業での知識定着度を確認するため、適宜ミニテストを行います。
成績評価の基準	①医療安全、医療情報、放射線、それぞれ20%ずつを各分野の授業点（課題・提出物 等で評価）としての配分とする。 ②期末試験での配分を40%とする。 基本的に①、②それぞれにおいて、6割以上修得することにより、本授業を修了した判定する。 全ての回に出席することを基本とします。この授業の達成目標に到達するために必要な出席回数（およそ8割程度）に出席が満たない場合は、単位を認めない場合があります。欠席した場合の学修補充については、医学部医学科履修及び試験内規に従います。
事前事後学習の内容	eALPSに掲示する。 本授業の単位修得には8時間分の時間外学修が必要です。
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー（質問、相談への対応）	本授業項目の扱う範囲は多種・広範に渡りますが、臨床実習を行うにあたり、更にその先の医療人として業務を行っていくうえで生涯必要とされるものです。授業をきっかけとして、各自の経験をもとに、さらに能力（知識・技能・態度）を深化させてください。 オフィスアワー 医療安全：増田雄一（准教授）、木曜日10：30-12：00（医療安全管理室） 医療情報：北口良晃（准教授）：オフィスアワーは特に設けておりません。質問、相談はメールで受け付けます(kitaguti@shinshu-u.ac.jp)。 放射線：藤永康成（教授）、木曜日12:30-14:00（画像医学教室医局）

授業日	第 1 回	4月 3日(金4～5)	SB0s	A-6-1) 安全性の確保 ①実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。 ②医療上の事故等を防止するためには、個人の注意（ヒューマンエラーの防止）はもとより、組織的なリスク管理（制度・組織エラーの防止）が重要であることを説明できる。 ③医療現場における報告・連絡・相談と記録の重要性や、診療録（カルテ）改竄の違法性を説明できる。 ④医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害、医療過誤（事例や経緯を含む）、やっではないけないこと、優れた取組事例等）を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。 ⑤医療の安全性確保のため、職種・段階に応じた能力向上の必要性を説明できる。 ⑧真摯に疑義に応じることができる。
講義室	医学科第2実習室			
G10	患者安全・医療の質向上がなぜ必要かを理解する。			○患者安全のために必要な能力を説明する。 ○医療の質向上に必要な取り組みを述べる。
担当	増田 雄一			
授業日	第 2 回	4月 3日(金 6)	SB0s	B-2-2) 診療録（カルテ）に関する基本的な知識（診療録の管理と保存（電子カルテを含む）、診療録の内容、診療情報の開示、プライバシー保護、セキュリティ、問題志向型医療記録<POMR>、主観的所見、客観的所見、評価、計画(subjective, objective, assessment, plan<SOAP>)) を説明でき、実際に作成できる。
講義室	医学科第2講義室			
G10	情報管理とプライバシー保護について理解する。			
担当	北口 良晃			
授業日	第 3 回	4月10日(金 5)	SB0s	A-6-1) 安全性の確保 ⑥医療機関における医療安全管理体制の在り方（事故報告書、インシデントレポート、医療事故防止マニュアル、医療廃棄物処理、医療安全管理者（リスクマネージャー）、安全管理委員会、事故調査委員会、医療事故調査制度、産科医療補償制度）を概説できる。 A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防 ①医療上の事故等（インシデントを含む）と合併症の違いを説明できる。 ②医療上の事故等（インシデントを含む）が発生したときの緊急処置や記録、報告を説明できる。 ③医療過誤に関連した刑事・民事責任や医師法に基づく行政処分を説明できる。
講義室	医学科第2講義室			○医療安全に関係する医師法について説明する。 ○医療安全に関係する医師法について説明する。
G10	医療安全にかかわる法制度について理解する。			
担当	増田 雄一			
授業日	第 4 回	4月23日(木 5)	SB0s	A-6-1) ②医療上の事故等を防止するためには、個人の注意(ヒューマンエラーの防止)はもとより、組織的なリスク管理(制度・組織エラーの防止)が重要であることを説明できる。 A-6-3) ①医療従事者の健康管理(予防接種を含む)の重要性を説明できる。 B-1-8) ⑥医師法、医療法等の医療関連法規を概説できる。 ⑦医療関連法規に定められた医師の義務を列挙できる。 ⑧医療における費用対効果分析を説明できる。 E-6-1) ①放射線の種類と放射能、これらの性質・定量法・単位を説明できる。 ②内部被ばくと外部被ばくについて、線量評価やその病態、症候、診断と治療を説明できる。 ③放射線及び電磁波の人体(胎児を含む)への影響(急性影響と晩発影響)を説明できる。 ④種々の正常組織の放射線の透過性や放射線感受性の違いを説明できる。 ⑤放射線の遺伝子、細胞への作用と放射線による細胞死の機序、局所的・全身的影響を説明できる。 ⑦放射線被ばく低減の3原則と安全管理を説明できる。 E-6-2) ①放射線診断やインターベンショナルラジオロジーの被ばく軽減の原則を知り、それを実行できる。 ②放射線診断(エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、核医学)や血管造影及びインターベンショナルラジオロジーの利益とコスト・リスク(被ばく線量、急性、晩発影響等)を知り、適応の有無を判断できる。 ③放射線治療の生物学的原理と、人体への急性影響と晩発影響を説明できる。 ④医療被ばくに関して、放射線防護と安全管理を説明できる。 ⑤放射線診断や治療の被ばくに関して、患者にわかりやすく説明できる。 E-6-4) ①内部被ばくと外部被ばくの病態、症候、線量評価、治療を説明できる。 F-2-5) ①エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、磁気共鳴画像法<MRI>と核医学検査の原理を説明できる。
講義室	医学科第2講義室			
G10	放射線管理・放射線装置の安全取り扱い			
担当	藤永 康成			
授業日	第 5 回	4月23日(木 6)	SB0s	E-6-1) ①放射線の種類と放射能、これらの性質・定量法・単位を説明できる。 ②内部被ばくと外部被ばくについて、線量評価やその病態、症候、診断と治療を説明できる。 ③放射線及び電磁波の人体(胎児を含む)への影響(急性影響と晩発影響)を説明できる。 ④種々の正常組織の放射線の透過性や放射線感受性の違いを説明できる。 ⑤放射線の遺伝子、細胞への作用と放射線による細胞死の機序、局所的・全身的影響を説明できる。 ⑦放射線被ばく低減の3原則と安全管理を説明できる。 E-6-2) ①放射線診断やインターベンショナルラジオロジーの被ばく軽減の原則を知り、それを実行できる。 ②放射線診断(エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、核医学)や血管造影及びインターベンショナルラジオロジーの利益とコスト・リスク(被ばく線量、急性、晩発影響等)を知り、適応の有無を判断できる。 ③放射線治療の生物学的原理と、人体への急性影響と晩発影響を説明できる。 ④医療被ばくに関して、放射線防護と安全管理を説明できる。 ⑤放射線診断や治療の被ばくに関して、患者にわかりやすく説明できる。 E-6-4) ①内部被ばくと外部被ばくの病態、症候、線量評価、治療を説明できる。 F-2-5) ①エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、磁気共鳴画像法<MRI>と核医学検査の原理を説明できる。 ②エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、磁気共鳴画像法<MRI>と核医学検査の読影の基本を説明できる。 ④放射線診断・治療による利益と不利益を説明できる。 E-6-2) ②放射線診断(エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、核医学)や血管造影及びインターベンショナルラジオロジーの利益とコスト・リスク(被ばく線量、急性、晩発影響等)を知り、適応の有無を判断できる。
講義室	医学科第2講義室			○エックス線写真およびCTにおける放射線の安全やそれを考慮したCT検査装置の取扱いについて説明できる。 ○エックス線写真およびCT適応を説明できる。
G10	CTにおける放射線の安全・CT検査装置の安全取り扱い			
担当	大淵 歩			

授業日	第 6 回	4月24日(金 4)	SB0s	A-6-1) 安全性の確保 ⑥医療機関における医療安全管理体制の在り方(事故報告書、インシデントレポート、医療事故防止マニュアル、医療廃棄物処理、医療安全管理者(リスクマネージャー)、安全管理委員会、事故調査委員会、医療事故調査制度、産科医療補償制度)を概説できる。 A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防 ①医療上の事故等(インシデントを含む)と合併症の違いを説明できる。 ②医療上の事故等(インシデントを含む)が発生したときの緊急処置や記録、報告を説明し、実践できる。 ③医療過誤に関連した刑事・民事責任や医師法に基づく行政処分を説明できる。 ○医療安全に関係する医療法について説明する。 ○医療安全に関係する医師法について説明する。
講義室	医学科第2講義室			
G10	医療安全にかかわる法制度について理解する。			
担当	増田 雄一			
授業日	第 7 回	4月24日(金 5)	SB0s	B-2-2) 診療録(カルテ)に関する基本的な知識(診療録の管理と保存(電子カルテを含む)、診療録の内容、診療情報の開示、プライバシー保護、セキュリティー、問題志向型医療記録<POMR>、主観的所見、客観的所見、評価、計画(subjective, objective, assessment, plan<SOAP>))を説明でき、実際に作成できる。
講義室	医学科第2講義室			
G10	診療記録における情報管理について理解する。			
担当	北口 良晃			
授業日	第 8 回	4月30日(木 5)	SB0s	E-6-1) ①放射線の種類と放射能、これらの性質・定量法・単位を説明できる。 ②内部被ばくと外部被ばくについて、線量評価やその病態、症候、診断と治療を説明できる。 ⑦放射線被ばく低減の3原則と安全管理を説明できる。 E-6-2) ②放射線診断(エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、核医学)や血管造影及びインターベンショナルラジオロジーの利益とコスト・リスク(被ばく線量、急性、晩発影響等)を知り、適応の有無を判断できる。 ④医療被ばくに関して、放射線防護と安全管理を説明できる。 ⑤放射線診断や治療の被ばくに関して、患者にわかりやすく説明できる。 E-6-3) ①患者と家族が感じる放射線特有の精神的・社会的苦痛に対して十分に配慮できる。 E-6-4) ①内部被ばくと外部被ばくの病態、症候、線量評価、治療を説明できる。 F-2-5) ①核医学検査の原理を説明できる。 ②核医学検査の読影の基本を説明できる。 ④放射線診断・治療による利益と不利益を説明できる。 ○放射線医薬品の特徴を説明できる。 ○各々の核医学検査の適応を説明できる。 ○SPECT, PETの違いを説明できる。
講義室	医学科第2講義室			
G10	放射性同位元素の安全取り扱い			
担当	柳澤 新			
授業日	第 9 回	4月30日(木 6)	SB0s	E-6-1) ③放射線及び電磁波の人体(胎児を含む)への影響(急性影響と晩発影響)を説明できる。 ④種々の正常組織の放射線の透過性や放射線感受性の違いを説明できる。 ⑦放射線被ばく低減の3原則と安全管理を説明できる。 E-6-2) ①放射線診断やインターベンショナルラジオロジーの被ばく軽減の原則を知り、それを実行できる。 ②放射線診断(エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、核医学)や血管造影及びインターベンショナルラジオロジーの利益とコスト・リスク(被ばく線量、急性、晩発影響等)を知り、適応の有無を判断できる。 ③放射線治療の生物学的原理と、人体への急性影響と晩発影響を説明できる。 ④医療被ばくに関して、放射線防護と安全管理を説明できる。 ⑤放射線診断や治療の被ばくに関して、患者にわかりやすく説明できる。 E-6-3) ①患者と家族が感じる放射線特有の精神的・社会的苦痛に対して十分に配慮できる。 E-6-4) ①内部被ばくと外部被ばくの病態、症候、線量評価、治療を説明できる。 F-2-5) ⑤インターベンショナルラジオロジー(画像誘導下治療)を概説できる。
講義室	医学科第2講義室			
G10	血管造影検査装置の安全取扱			
担当	鈴木 健史			
授業日	第 10 回	5月 1日(金 4)	SB0s	A-4-2) 患者と医師の関係 ①患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分に配慮できる。 ②患者に分かりやすい言葉で説明できる。 ③患者の心理的及び社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。 A-5-1) 患者中心のチーム医療 ①チーム医療の意義を説明できる。 ○医療における患者参画の必要性を説明する。
講義室	医学科第2講義室			
G10	Patient engagementについて理解する。			
担当	増田 雄一			
授業日	第 11 回	5月 1日(金 5)	SB0s	B-2-2) 診療録(カルテ)に関する基本的な知識(診療録の管理と保存(電子カルテを含む)、診療録の内容、診療情報の開示、プライバシー保護、セキュリティー、問題志向型医療記録<POMR>、主観的所見、客観的所見、評価、計画(subjective, objective, assessment, plan<SOAP>))を説明でき、実際に作成できる。
講義室	医学科第2講義室			
G10	医療情報として診療録について理解する。			
担当	北口 良晃			
授業日	第 12 回	5月 1日(金 6)	SB0s	B-2-2) 電子化された診療情報の作成ができ、管理を説明できる。
講義室	医学科第2講義室			
G10	電子化された医療情報の利用方法について理解する。			
担当	北口 良晃			

授業日	第 13 回	5月 8日(金 5)	SB0s	A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防 ④基本的予防策（ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセーフ・フルブルーフの考え方等）を概説できる。 ○ノンテクニカルスキルの重要性を説明する。 ○TeamSTEPPSの枠組みを用いて、情報共有を行う
講義室	医学科第2講義室			
GI0	チーム医療における情報共有について身に着ける。			
担当	増田 雄一			
授業日	第 14 回	5月 8日(金 6)	SB0s	A-6-1) ②医療上の事故等を防止するためには、個人の注意(ヒューマンエラーの防止)はもとより、組織的なリスク管理(制度・組織エラーの防止)が重要であることを説明できる。 A-6-3) ①医療従事者の健康管理(予防接種を含む)の重要性を説明できる。 E-6-1) ①放射線の種類と放射能、これらの性質・定量法・単位を説明できる。 ②内部被ばくと外部被ばくについて、線量評価やその病態、症候、診断と治療を説明できる。 ③放射線及び電磁波の人体(胎児を含む)への影響(急性影響と晩発影響)を説明できる。 ④種々の正常組織の放射線の透過性や放射線感受性の違いを説明できる。 ⑥放射線の遺伝子、細胞への作用と放射線による細胞死の機序、局所的・全身的影響を説明できる。 ⑦放射線被ばく低減の3原則と安全管理を説明できる。 E-6-2) ③放射線治療の生物学的原理と、人体への急性影響と晩発影響を説明できる。 ④医療被ばくに関して、放射線防護と安全管理を説明できる。 ⑤放射線診断や治療の被ばくに関して、患者にわかりやすく説明できる。 E-6-3) ①患者と家族が感じる放射線特有の精神的・社会的苦痛に対して十分に配慮できる。 E-6-4) ①内部被ばくと外部被ばくの病態、症候、線量評価、治療を説明できる。 F-2-5) ④放射線治療の原理を説明し、主な放射線治療法を列挙できる。 ④放射線診断・治療による利益と不利益を説明できる。
講義室	医学科第2講義室			
GI0	放射線治療装置の安全取り扱い～がん治療における放射線の利用と防護			
担当	伊奈 廣信			
授業日	第 15 回	5月15日(金 5)	SB0s	A-6-1) ②医療上の事故等を防止するためには、個人の注意(ヒューマンエラーの防止)はもとより、組織的なリスク管理(制度・組織エラーの防止)が重要であることを説明できる。 A-6-3) ①医療従事者の健康管理(予防接種を含む)の重要性を説明できる。 E-6-1) ①放射線の種類と放射能、これらの性質・定量法・単位を説明できる。 ②内部被ばくと外部被ばくについて、線量評価やその病態、症候、診断と治療を説明できる。 ③放射線及び電磁波の人体(胎児を含む)への影響(急性影響と晩発影響)を説明できる。 ④種々の正常組織の放射線の透過性や放射線感受性の違いを説明できる。 ⑥放射線の遺伝子、細胞への作用と放射線による細胞死の機序、局所的・全身的影響を説明できる。 ⑦放射線被ばく低減の3原則と安全管理を説明できる。 E-6-2) ③放射線治療の生物学的原理と、人体への急性影響と晩発影響を説明できる。 ④医療被ばくに関して、放射線防護と安全管理を説明できる。 ⑤放射線診断や治療の被ばくに関して、患者にわかりやすく説明できる。 E-6-3) ①患者と家族が感じる放射線特有の精神的・社会的苦痛に対して十分に配慮できる。 E-6-4) ①内部被ばくと外部被ばくの病態、症候、線量評価、治療を説明できる。 F-2-5) ③放射線治療の原理を説明し、主な放射線治療法を列挙できる。 ④放射線診断・治療による利益と不利益を説明できる。
講義室	医学科第2実習室			
GI0	放射線治療装置の安全取り扱い放射線施設の利用と放射線管理			
担当	小岩井 慶一郎			
授業日	第 16 回	5月22日(金 4～6)	SB0s	A-4-2) 患者と医師の関係 ①患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分に配慮できる。 ②患者に分かりやすい言葉で説明できる。 ③患者の心理的及び社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。 A-5-1) 患者中心のチーム医療 ①チーム医療の意義を説明できる。 ○TeamSTEPPSの枠組みを用いて、リーダー、フォロワー、情報共有、業務の進め方を考える。
講義室	医学科第2講義室			
GI0	チーム医療について考える。			
担当	増田 雄一			
授業日	第 17 回	5月29日(金 4)	SB0s	B-2-2) 電子化された診療情報の作成ができ、管理を説明できる。
講義室	医学科第2講義室			
GI0	電子化された医療情報の現状と問題点について理解する。			
担当	北口 良晃			
授業日	第 18 回	5月29日(金 5)	SB0s	A-6-1) 安全性の確保 ①実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。 ②医療上の事故等を防止するためには、個人の注意(ヒューマンエラーの防止)はもとより、組織的なリスク管理(制度・組織エラーの防止)が重要であることを説明できる。 ④医療の安全性に関する情報(薬剤等の副作用、薬害、医療過誤(事例や経緯を含む)、やってはいけないこと、優れた取組事例等)を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。 ○患者安全・医療の質向上が、多職種協働により行われていることを説明する。 ○様々な医療の場面において、他の職種との視点の共通点と差異を感じる。
講義室	医学科第2講義室			
GI0	医療安全における、医師以外の職種の考え方、視点を知る。			
担当	増田 雄一			

授業日	第 19 回	5月29日(金 6)	SB0s	A-4-2) 患者と医師の関係 ①患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。 ②患者に分かりやすい言葉で説明できる。 ③患者の心理的及び社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。 A-5-1) 患者中心のチーム医療 ①チーム医療の意義を説明できる。 A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防 ④基本的予防策（ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセーフ・フールプルーフの考え方等）を概説し、指導医の指導の下に実践できる。 ○Patient journey mappingについて解釈する。 ○今後のグループワークの準備をする。 ○グループでの活動計画を作成する（グループ長、書記、発表者の決定と作成）。 ○Patient journey map作成に参加する。 ○患者さんが、医療を通じて経験する可能性があるリスク要因を調べる。
講義室	医学科第2講義室			
GI0	Patient journey mappingについて知る。 Patient journey mapの作成を通じ、患者さんが、医療を通じて経験する可能性があるリスク要因を考察する。			
担当	増田 雄一			
授業日	第 20 回	6月 4日(木 4)	SB0s	A-6-1) ②医療上の事故等を防止するためには、個人の注意(ヒューマンエラーの防止)はもとより、組織的なリスク管理(制度・組織エラーの防止)が重要であることを説明できる。 E-6-1) ①放射線の種類と放射能、これらの性質・定量法・単位を説明できる。 ③放射線及び電磁波の人体(胎児を含む)への影響(急性影響と晩発影響)を説明できる。 ⑤磁気共鳴画像法<MRI>で用いられている磁場や電磁波による人体や植え込みデバイスの発熱等の現象を概説できる。 E-6-2) ②放射線診断(エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、核医学)や血管造影及びインターベンショナルラジオロジーの利益とコスト・リスク(被ばく線量、急性、晩発影響等)を知り、適応の有無を判断できる。 ⑤放射線診断や治療の被ばくに関して、患者にわかりやすく説明できる。 F-2-5) ①エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、磁気共鳴画像法<MRI>と核医学検査の原理を説明できる。 ②エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、磁気共鳴画像法<MRI>と核医学検査の読影の基本を説明できる。 ○MRI検査の概要と適応について説明できる。 ○MRI検査時の安全体制について説明できる。
講義室	医学科第2講義室			
GI0	MRI			
担当	山田 哲			
授業日	第 21 回	6月 5日(金 4～6)	SB0s	(学生自主的ワーク取り組みのための時間)
講義室	医学科第2実習室			
GI0	Patient journey map作成			
担当	増田 雄一			
授業日	第 22 回	6月11日(木 4～5)	SB0s	プロダクト発表会の準備(学生自主ワークの時間)
講義室	医学科第2講義室			
GI0	Patient journey map作成			
担当	増田 雄一			
授業日	第 23 回	6月12日(金 4～5)	SB0s	プロダクト発表会
講義室	旭総合講義室A B			
GI0	Patient journey map発表			
担当	増田 雄一			
授業日	第 24 回	6月19日(金 4～5)	SB0s	
講義室	旭総合講義室A B			
GI0	Patient journey mapプロダクト発表(後半) 授業のふりかえりを入力する。			
担当	増田 雄一			
授業日	第 25 回	6月29日(月 2～3)	SB0s	
講義室	旭総合講義室A B			
GI0	期末試験			
担当	増田 雄一, 藤永 康成, 北口 良晃			